

DMG MORI

DIGITIZATION

ADDITIVE MANUFACTURING

AUTOMATION

dynam*i*c

TECHNOLOGY EXCELLENCE

DMG MORI QUALIFIED PRODUCTS

EXCELLENCE

第71期
株主通信

2018年1月1日●2018年12月31日

証券コード：6141

DMG森精機株式会社



**お客様にとって一番の
工作機械メーカーであること。
それが私たちのグローバルワンです。**

工作機械の総合メーカーとして、DMG森精機は常に変革と挑戦を続けてまいりました。そして今、私たちが目指していること、それは、お客様にとって一番の工作機械メーカーになることです。最高の技術とサービスを絶えず追求し、工作機械の新しい価値と無限の可能性を、世界中のお客様へお届けしてまいります。

取締役社長 森 雅彦
博士(工学)

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、心よりお礼申し上げます。
ここに第71期(2018年1月1日から2018年12月31日まで)の
株主通信をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

Q 2018年12月期の業績は?

当連結会計年度(当期)における業績は、売上収益は501,248百万円(3,843,927千EUR)、営業利益は36,261百万円(278,077千EUR)、税引前当期利益は31,275百万円(239,840千EUR)、親会社の所有者に帰属する当期利益は18,517百万円(142,002千EUR)となりました。工作機械関連の受注金額は、前年度比11%増の4,970億円となりました。ただ、上期の受注は前年同期比23%増と好調に推移したものの、下期の受注は高水準を確保するもほぼ前年並みに

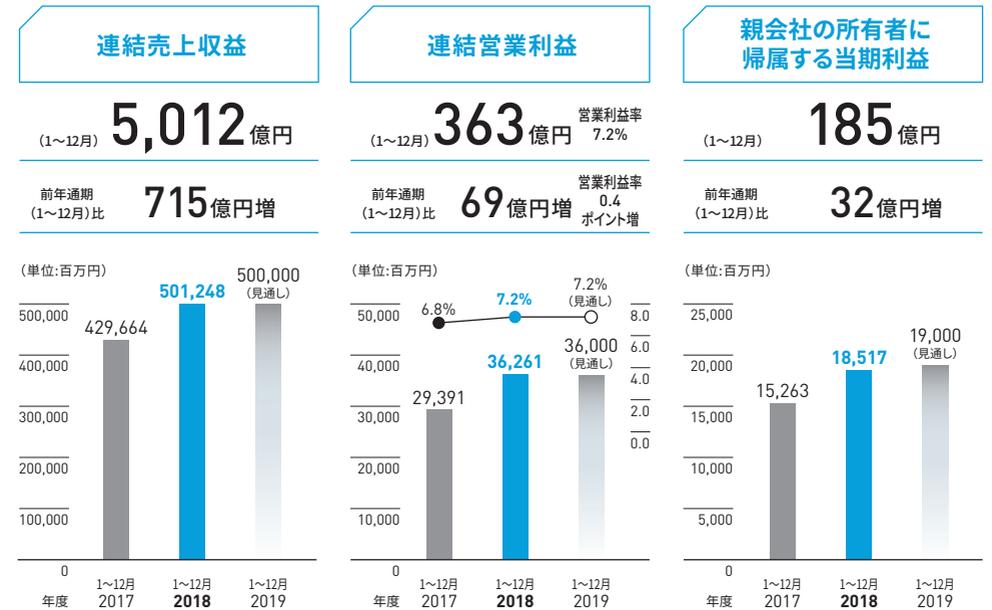
留まっております。CELOS、テクノロジーサイクル、周辺装置を含む自動化需要が伸長し、受注総額に占める自動化案件の比率は24%(前年度17%)まで向上いたしました。また、5軸加工機、複合加工機のほか、超音波及びアディティブマニファクチャリング(積層造形)などの先端技術の受注も伸長いたしました。地域別には、日本が前年度比24%増と最も高い伸びとなり、次いで米州が13%増、欧州、中国がそれぞれ7%増、インドを含むアジアが4%増と各地域とも増加いたしました。日本、米州、欧州は、年度を通じて高水準の受注を確保しております。中国市場については、業界がスマートフォンの

筐体加工関連の需要減の影響を受ける中、当社グループはその関連事業が一切なく、第3四半期(1-9月)までは、トラック、バスなどの輸送機器、エネルギー関連、一般機械向け受注増を享受できました。しかし、第4四半期に入り、米中貿易摩擦の影響を避けられず、需要減に加え、お客様の外貨調達難から、当社の受注計上要件となる前受金の受領が遅れる傾向が生じ、受注は大幅な減少が続いております。年度での地域別受注構成比は、日本が18%、米州が18%、欧州が50%、中国が8%、インドを含むアジアが6%となりました。

※ ユーロ建表示は2018年1月~12月の期中平均レート130.4円で換算しております。

Q 2018年の技術と成果は?

技術面では、大型5軸加工機DMU 340 Gantry及びDMU 200 Gantryを11月に東京で開催されたJIMTOF2018にて日本初披露し、同月より国内で販売開始いたしました。標準搭載の自社製高性能主軸speedMASTERが高速かつ高精度な加工を実現するだけでなく、ガントリー構造の固定テーブルを採用することにより、重量ワークや偏荷重ワークへの対応も可能となりました。DMU Gantryシリーズは、アルミのほかGFRP(ガラス繊維強化プラスチック)やCFRP(炭素繊維強化プラスチック)の大型加工物も効率よく加工できることから航空宇宙業界や金型業界のニーズにもお応えできます。また、急速な



デジタル化へのセキュリティ対策として、ヒューマンマシンインターフェイスCELOSにマカフィー株式会社の「McAfee Embedded Control」を2019年6月以降の日本国内生産機に標準採用し、システムの停止や情報流出を阻止する情報セキュリティ対策を強化いたします。

販売面につきましては、JIMTOF2018やドイツゼーバッハ工場での自社展示会オープンハウスにおいて、最先端機械とデジタル技術を駆使した製造業の未来を紹介いたしました。さらに、11月にフランクフルトで開催されたformnext2018や、同月に東京で開催された国際航空宇宙展2018などの展示会を通じ、LASERTEC 30 SLM 2nd Generationを活用した当社のアディティブマニュファクチャリング技術の実例を紹介いたしました。

当社では、事業戦略として製造現場での自動化・複合化の促進と5軸加工機の普及、統合的なデジタル化によるインダストリー4.0の実現に取り組んでおります。さらにアディティブ

マニュファクチャリングの発展やDMQP(DMG森精機認定周辺機器)パートナーとの連携を通じ、すべてのお客様に最適なソリューションを提供してまいります。2018年は、70周年記念事業の一環としてお客様や奈良県・三重県の教育機関などに5軸加工機を貸出してきたほか、10月にデジタルソリューションを活用したモデル工場として、ポーランドFAMOT工場をグランドオープンさせました。さらにクーラントタンク内の微細なスラッジを回収するゼロスラッジクーラントタンクをはじめとする最先端の技術で、自動化やデジタル化の進んだ製造現場における高性能かつ低メンテナンスの機械への要求にお応えしてまいりました。当社グループはあらゆるお客様の生産活動の課題解決を一手に引き受け、激しく変革する社会の中で重要な役割を果たし続けます。第71期の配当につきましては、当社の業績と経済情勢を勘案し、1株当たり中間配当金25円、期末配当金25円の年間50円といたします。

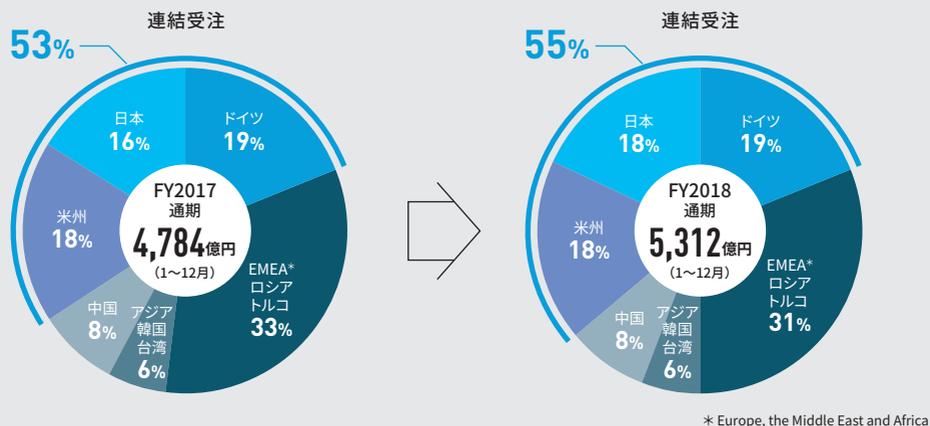
Q 2019年の見通しは？

2019年度(1-12月)は、日本工作機械工業会が受注を前年度比約12%減と予想するなど、高水準の中での調整局面を迎える見込みです。そのような環境下において、当社は今まで進めてきた5軸加工機、複合加工機などの工程集約型機械、自動化システムの需要増、超音波加工機、アディティブマニュファクチャリングなど先端加工技術の用途拡大に手応えを感じており、引き続き受注の拡大に尽力してまいります。なお、来期の1株当たりの配当予想は、30円(年間配当60円)です。

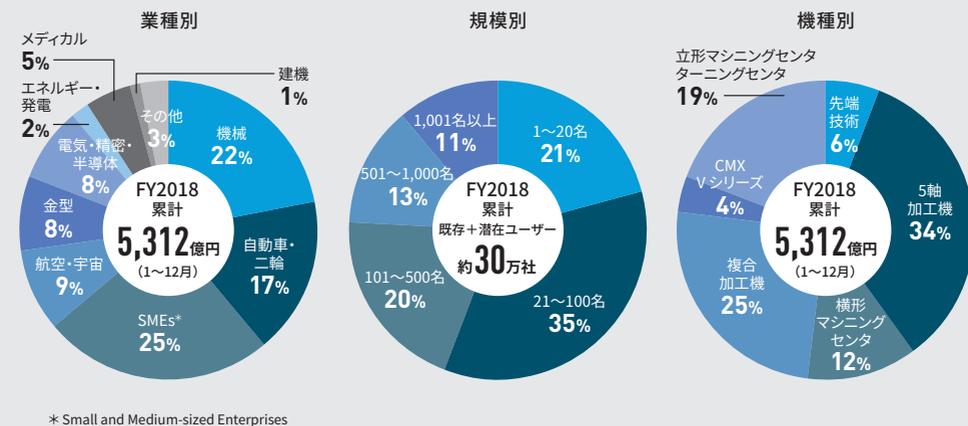
また「DMG MORI SAILING TEAM」を発足し、日本における外洋ヨットレースの第一人者である海洋冒険家の白石康次郎氏を迎え入れて、単独・無寄港・無補給の世界一周ヨットレース「Vendée Globe2020」に挑戦いたします。長年トップクラスのモータースポーツにおいてテクニカルパートナーを

務めてきた経験を活かし、あらゆる自然環境に耐える剛性、精度を追求した最先端の船舶の提供を通して、製造業の発展に貢献してまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

地域別受注構成 ※金額ベース



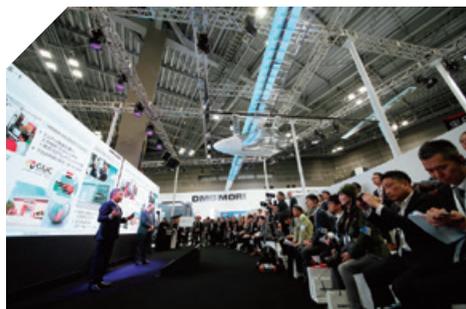
受注構成 ※金額ベース



2018年11月

JIMTOF2018に出展

2018年11月1日(木)～6日(火)の6日間、東京ビッグサイトにて開催されたJIMTOF2018に出展いたしました。「DMG MORI デジタルファクトリー」をテーマに、東8ホールを貸し切り、出展企業中最大となる2,160㎡のブースを単独で出展いたしました。ホール内には日本で初披露の機種4台を含めた計22台の製品を展示しました。工程集約を実現する5軸加工機、複合加工機の活用事例のほか、自動化ソリューションや機械と工場をつなぐデジタルソリューションなどDMG MORIの最先端技術を用いた多彩なソリューションをご紹介いたしました。ブース設営を通じて一般的な工場をわずか1週間で立ち上げるなど臨場感のあるトータルソリューションの展示方法が注目され、会期中は過去最高となる計約85,000名のお客様にお越しいただきました。自動車用金型や航空機部品など大物の難削材の加工に対応する大型5軸加工機DMU 340 Gantry とDMU 200 Gantry、機械を稼働させたままの状態フィルタを自動交換できる新技術を採用したアディティブマニュファクチャリング機LASERTEC 30 SLM 2nd Generationなどを日本で初めて公開いたしました。自動化では、専門知識がなくても使用できるロボットシステムMATRISなどを展示。デジタル化では、アイデアから完成品に仕上げる工程を簡略化するヒューマンマシンインターフェイスCELOSと、機械をネットワークでつないで稼働状況などを監視できるシステムなどをご観いただきました。2019年は、INTERMOLD東京や、CIMT(中国)、EMO(ドイツ)などに出席し、新機種や新技術を多数ご紹介する予定です。



2018年11月

大型5軸加工機DMU 340 GantryとDMU 200 Gantryを日本初公開

JIMTOF2018では、大型5軸加工機DMU 340 GantryとDMU 200 Gantryを日本で初めて公開いたしました。自社で内製した高性能主軸speedMASTERを標準搭載し、動的性能と切削能力が高く、アルミや炭素繊維強化プラスチック(CFRP)などの難削材に対応し、大型金型や航空機部品など大物の加工に最適です。



大型5軸加工機 DMU 340 Gantry

2018年10月

FAMOT工場 グランドオープン

2018年10月8日、ポーランド・プレシェフで欧州の最重要生産拠点のひとつであるFAMOT工場をグランドオープンしました。投資額は約80億円で、総面積を20,000㎡から50,000㎡へと拡張させました。5軸加工機の組立能力・加工能力の増強をし、増加する需要に対応する体制を整えました。また、デジタル化の投資に重点を置いて計画・段取り・生産・モニタリング・保全情報のシステムによる一元管理を実現し、インダストリー4.0/コネクテッドインダストリーズの実証工場として生まれ変わりました。



デジタルファクトリーの実証工場へと生まれ変わったFAMOT工場

2018年10月

「DMG MORI SAILING TEAM」発足 単独・無寄港・無補給の世界一周ヨットレース Vendée Globe2020へ挑戦



2018年10月、プロフェッショナル外洋セーリングチーム「DMG MORI SAILING TEAM」が発足しました。海洋冒険家の白石康次郎氏をスキッパーとして迎え入れ、単独・無寄港・無補給の世界一周ヨットレース「Vendée Globe2020 (ヴァンデ・グローブ)」(2020年11月開幕、フランス)に挑戦いたします。同レースは世界のトップセーラーが集い、約80日間で南半球(約48,000km)を一周する過酷なヨットレースです。1989年から4年に一度開催されており、開催地のフランスでは「テニス全仏オープン」「ツール・ド・フランス」と並ぶ人気で、欧州でも高い認知度を誇ります。白石氏は、2016年大会にアジア人として初出場を果たし、完走を目指したものの、マストのトラブルにより残念ながらリタイアとなりました。2020年11月からスタートする第9回大会では、DMG MORIの一員として完走を目指します。DMG MORIは、お客様に最先端の工作機械とソリューションをお届けするとともに「DMG MORI SAILING TEAM」の活動を通して、製造業の発展に貢献してまいります。



全世界でお客様をサポートしています。

全世界の
セールス&
サービス

42 力国 157 拠点

- セールス&サービス
- グループ会社
- 生産拠点



グローバル
ヘッドクォーター

DMG MORIのセールス・サービス・マーケティング・経理財務・人事を統括するグローバル本社です。



1 東京

ナショナルヘッドクォーター

ドイツ

DMG MORI AGの本社として機能します。



2 Bielefeld

日本

DMG森精機の本社として機能します。



3 名古屋

開発・生産 (日本)



4 伊賀



5 奈良
奈良システムソリューション工場

開発・生産 (ドイツ・イタリア・ポーランド・アメリカ・中国・グループ会社)



6 Pfronten (ドイツ)



7 Seebach (ドイツ)



8 Bergamo (イタリア)



9 Pleszew (ポーランド)



10 Davis (アメリカ)



11 Tianjin (中国)



12 太陽工機 (新潟)



13 マグネスケール (神奈川)

※主要開発・生産拠点、他数ヶ所

この世界にDMG MORI

私たちの生活は衣食住に加えて、移動する、通信する、健康に暮らすなどの行動で成り立っています。

そのすべての人間活動に工作機械は欠かせません。

例えば、ペットボトルは工作機械によって削られた金型に原料を流し込んで作られています。

同様に、発電所にも、飛行機にも、人工関節にも、遊具にも、もとをたどれば工作機械が関わっています。

工作機械の進化によって、私たちの世界はより豊かになります。

機械・ロボット・オートメーション



コントロールバルブ

シートフレーム

コネクタ



建機部品

ポンプハウジング

スプール

航空・宇宙



高圧コンプレッサ
ハウジング

パウダーノズルホルダ

コンプレッサディスク

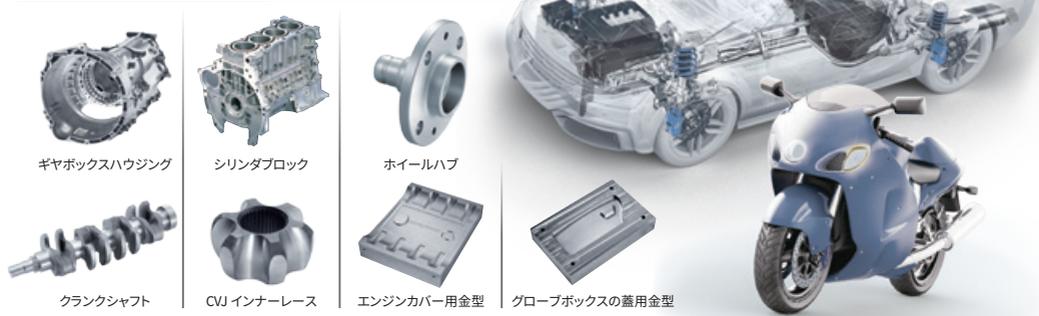


ファンディスク

トルクリンク

ブリスク

自動車・二輪・EV



ギヤボックスハウジング

シリンダブロック

ホイールハブ



クランクシャフト

CVT インナーレース

エンジンカバー用金型

グローブボックスの蓋用金型

資源・エネルギー

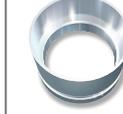


タービンブレード

リング

水力発電タービン

光通信用スライドスリーブ



ドリルヘッド

リング

水力発電タービン

スクロール

金型



ホビー用金型

トレーニングシューズ用
金型

ペットボトル用金型



鉄道模型用金型

携帯電話用金型

ハンディクリーナー用金型

メディカル



膝関節

股関節

義歯

ソケット

骨ねじ

骨プレート

連結財政状態計算書

(単位:百万円)

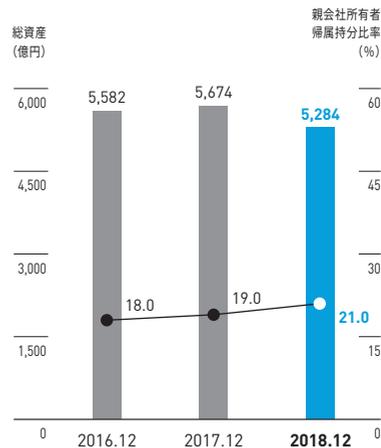
科目	前期	当期
	2017年 12月31日現在	2018年 12月31日現在
流動資産	267,979	244,029
非流動資産	299,431	284,393
有形固定資産	133,983	128,686
のれん	73,347	68,854
その他の無形資産	69,315	65,399
その他	22,786	21,454
資産合計	567,411	528,423
流動負債	159,958	314,537
非流動負債	297,433	99,718
資本合計	110,019	114,166
負債及び資本合計	567,411	528,423

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	自2017年1月1日 至2017年12月31日	自2018年1月1日 至2018年12月31日
収益合計	441,692	505,720
売上収益	429,664	501,248
その他の収益	12,028	4,472
費用合計	412,301	469,459
商品及び製品・ 仕掛品の増減	5,578	△1,498
原材料費及び 消耗品費	189,000	235,972
人件費	120,728	131,426
減価償却費及び 償却費	18,344	18,499
その他の費用	78,650	85,059
営業利益	29,391	36,261
税引前当期利益	24,803	31,275
当期利益	15,676	19,374
親会社の所有者	15,263	18,517
非支配持分	412	857

総資産／親会社所有者帰属持分比率



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	自2017年1月1日 至2017年12月31日	自2018年1月1日 至2018年12月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	31,423	49,398
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,387	△19,020
財務活動による キャッシュ・フロー	△37,726	△65,433
現金及び 現金同等物に係る 換算差額	4,913	△2,550
現金及び 現金同等物の 増減額(△は減少)	△2,777	△37,605
現金及び 現金同等物の 期首残高	67,750	64,973
現金及び 現金同等物の 期末残高	64,973	27,368

詳しい解説は「連結決算Q&A資料」より
ご覧いただけます。

DMG森精機 投資家

検索

<https://www.dmgmori.co.jp/corporate/ir/>

Q1 2018年度の利益増減要因は？

2018年度の営業利益は363億円で、2017年度の実質営業利益281億円と比べると82億円増加しました。プラス要因は、数量増及び自動化システムなどの売上増による付加価値増で235億円、欧州通貨に対する円安で5億円、併せて240億円となりました。マイナス要因は、調達部材の単価上昇に加え、部材の納期遅れによる物流、加工委託費などの増加で68億円、人件費は部材の納期遅れによる製造・販売部門の混乱による影響も含め56億円、東京デジタルイノベーションセンター設立を含むR&D費、減損、除却損を含め34億円、併せて158億円となりました。

Q2 2019年度の見通しは？

2019年度の営業利益は、ほぼ前年並みの360億円を計画しております。プラス要因として、昨年度発生したサプライヤ起因による物流費等の改善で40億円、ディスカウントレート改善等で30億円を計画しています。マイナス要因として、為替要因で30億円、人件費の増加で30億円、R&D費などの増加で13億円、併せて73億円を計画しております。受注は、ほぼ前年並みで計画しています。台数ベースで10%減を見込んでいますが、自動化の需要が増加するなど付加価値向上により単価で10%増を見込み、金額ベースでは前年並みを確保できると考えています。地域的には、米中貿易摩擦の影響から中国での受注をやや慎重に見ていますが、その他地域はほぼ前年並みを計画しています。

DMG MORIの
SDGsへの取り組み

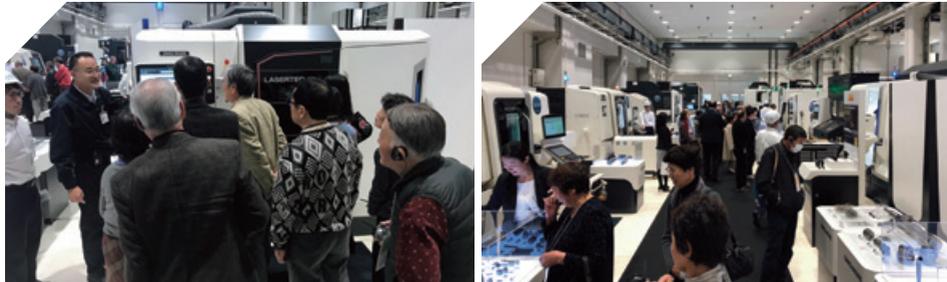
DMG MORIのCSR活動は、長期的な視点で事業活動を俯瞰し、持続的成長へつながるよう指針を決めています。グローバル企業の一員として、持続可能な開発目標(SDGs)への貢献を目指しています。



関連する目標	DMG MORIの取り組み
12 つくばい責任 つかう責任	●中古機販売
13 気候変動に 関係する対応を	●省エネ技術(GREENmode)による エネルギー消費量抑制 ●製造現場における排出量のモニタリング
16 平和と公正を すべての人に	●厳格な輸出管理手続に基づいた、 製品の平和利用を担保
5 ジェンダー平等を 実現しよう	●女性が働きやすい労働条件整備 ●従業員国籍の多様性 ●メリハリをつけた働き方で、生産性向上
8 働きがいも 経済成長も	
4 質の高い教育を みんなに	●DMG森精機奨学基金への拠出 ●大学、高等専門学校への助成
9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	●学術関連団体との連携による研究開発

株主様向け 東京グローバルヘッドクォータ見学会のご案内

見学会では、オペレータが最新鋭の工作機械をご説明するほか、実演加工をいたします。皆様のご応募をお待ちいたしております。



※ 昨年12月に開催した東京での見学会の様子

日時 2019年6月13日(木) 11:00~14:30

見学場所 東京グローバルヘッドクォータ ソリューションセンタ (JR潮見駅より徒歩3分)

参加費 無料 (集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担をお願いいたします)

募集対象 2018年12月31日時点でDMG森精機の株式を100株以上保有されている方 (ご同伴は1名様まで、小学生以上)

募集定員 50名 (応募多数の場合は抽選)

交通 バス(東京駅⇄東京グローバルヘッドクォータ)もしくは公共交通機関

備考 昼食をご用意しております

申し込み方法 左記のQRコードもしくは下記URLからのお申し込みのみとさせていただきます。
<https://www.dmgmori.co.jp/sp/irtour/>



申し込み期間 2019年3月23日(土) 9:00 ~ 4月18日(木) 17:00
抽選結果は5月15日(水)に、当選された方のみメールにてご連絡いたします。(落選の場合はご連絡いたしません)

お問合せ DMG森精機株式会社
広報グループ E-mail : users@dmgmori.co.jp

会社の概要

2018年12月31日時点

会社名	DMG森精機株式会社
資本金	51,115百万円
設立	1948年10月
本店(登記上)	〒639-1160 奈良県大和郡山市北郡山町106番地 TEL : 0743-53-1125(代)
名古屋本社	〒450-0002 名古屋市中村区名駅2丁目35-16 TEL : 052-587-1811(代)
東京グローバルヘッドクォータ	〒135-0052 東京都江東区潮見2丁目3-23 TEL : 03-6758-5900(代)
主な事業内容	工作機械(マシニングセンタ、ターニングセンタ、複合加工機、5軸加工機及びその他の製品)、ソフトウェア(ユーザインターフェイス、テクノロジサイクル、組込ソフトウェア等)、計測装置、サービスサポート、アプリケーション、エンジニアリングを包括したトータルソリューションの提供
従業員	13,042名(連結)
ホームページ	https://www.dmgmori.co.jp

株式の状況

2018年12月31日時点

発行可能株式総数	300,000,000株
発行済株式の総数	123,935,256株(自己株式2,018,427株を除く)
単元株式数	100株
期末株主数	38,669名

大株主

2018年12月31日時点

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,587	4.51
森 雅彦	3,591	2.90
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(森記念製造技術研究財団口)	3,500	2.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,085	2.49
DMG森精機従業員持株会	2,899	2.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	2,450	1.98
野村信託銀行株式会社(DMG森精機従業員持株会専用信託口)	2,273	1.83
CDSIL AS DEPOSITARY FOR OLD MUTUAL GLOBAL INVESTORS SERIES(常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ)	2,229	1.80
野村信託銀行株式会社(投信口)	2,175	1.76
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2,096	1.69

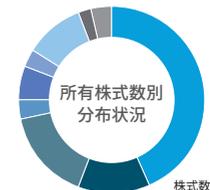
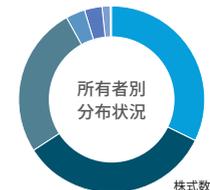
(注)持株比率は自己株式を控除して計算しております。なお、自己株式には「信託型従業員持株インセンティブ・プラン」により野村信託銀行株式会社(DMG森精機従業員持株会専用信託口)が所有する当社株式(2,273,700株)は含んでおりません。

役員

2019年3月22日時点

取締役社長	※ 森 雅彦
取締役副社長	クリスチャン・トーネス
取締役副社長	※ 玉井 宏明
取締役副社長	※ 小林 弘武
専務取締役	藤嶋 誠
専務取締役	ジェームス・ヌド
常務取締役	古田 稔
取締役	青山 藤詞郎
取締役	野村 剛
取締役	中嶋 誠
取締役	御山 尚資
常勤監査役	川山 登志雄
監査役	土屋 総二郎
監査役	川村 嘉則

(注)1.※印は、代表取締役を示しています。
2.取締役の青山藤詞郎、野村剛、中嶋誠、御山尚資の4名は、社外取締役です。
3.監査役の土屋総二郎、川村嘉則の2名は、社外監査役です。



株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
期末配当金 受領株主確定日	12月31日
中間配当金 受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-782-031(通話料無料)
特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 電話：0120-094-777(通話料無料)
上場証券取引所	株式会社東京証券取引所 市場第1部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.dmgmori.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に掲載いたします。)

(ご注意)

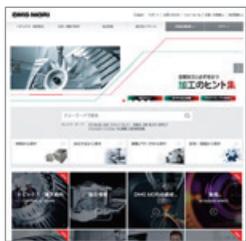
1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未滿株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三井住友信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三井住友信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

<https://www.dmgmori.co.jp>

ホームページにて当社の企業情報を随時公開しています。

製品紹介、各種リンク、サポート情報などを掲載しているほか、コーポレートサイトでは決算短信などもご覧いただけます。



TOPページ



コーポレートページ



投資家情報ページ (IR資料)



Facebook 毎日更新中



いいね!

お待ちしております!

